



10月の台風で冠水した農地(山本地区)

**山本・河原地区で冠水  
答 強制排水 落ち葉除去対応**

南部 登志子 議員  
(無党派)

○ 10月の台風大雨被害。  
○ 山本地区・河原地区の一部で冠水した。原因と対策は、  
①普賢寺地域の指定避難所は普賢寺小学校だが、中山間地域の方が大雨の中を避難するのは危険。見直しが必要では。  
(建設部長) ○山本地区は樋門の閉鎖による内水位の上昇が原因。移動ポンプ車の配備で強制排水を実施。樋門へのポンプ設置は引き続き国に要望する。河原地区は水路や道路側溝まわりの流れが悪いことが原因。落ち葉を取り除くなどして排水機能を回復。  
(危機管理監) ○避難待機所である地区公民館を活用。  
○ 地産地消を一層進めるためには、生産者と消費者である市民をつなぐ、専門知識を有した地産地消コーディネーターが必要。  
(経済環境部長) 地産地消の取り組みには多種多様な形態があるため、コーディネーターの必要性を含めて研究する。  
○ 若年層、とりわけ女性の間で梅毒罹患率が急増。これは他の性感染症やHIV罹患、母子感染の可能性も高まっていること。対策は、  
(教育部副部長) 学習指導要領に基づき、発達段階に応じた学習・指導を実施している。  
(健康福祉部長) 罹患率急増を認識。HPで1年を通じた情報提供や、若者への啓発活動を実施している。  
○ 市道田辺平田線の交通対策とハローワーク裏の駐輪場対策を。  
(建設部長) 市道は啓発看板を設置。駐輪場は整理を強化



建設中の北陸新幹線福井駅

**あと一本新幹線必要か  
答 情報は市民に提供する**

西畑 利彦 議員  
(共産党)

○ 国土交通省の説明では、JR松井山手駅付近に新幹線駅を設置することで、京都南部の活性化に言及していない。費用対効果も低い。経済効果試算を市民に明示を。そもそも、京都・大阪間とあと一本の新幹線が必要なのか。  
(理事) 府において地域経済効果を試算している。駅ができただけでは経済効果はなく、いかに波及させるかだ。情報はどんどん市民に提供する。  
○ 南部地域では土砂採集の行為が拡大されており、自然破壊防止や、生活環境を守るために規制を強化すべき。  
(経済環境部長) 事業者に条例を守らせることが未然防止になる。常に監視し、関係機関とも連携して取り組む。  
○ 10月の台風による法面崩壊の教訓をいかして、未然防止の対応を。  
(建設部長) 事業者に二次災害防止と復旧を指導している。  
○ 通園・通学路の安全対策として、一休ヶ丘地域の天津神川のふたかけ歩道整備・長尾谷バス停・とんち坂の整備を。また、災害防止のための河川内の樹木の撤去を。  
(建設部長) 河川内の樹木は府に状況確認するよう伝えるが、歩道のふたかけは、構造的なこと、河川であることから難しいと考える。長尾谷バス停は、整備に向け設計している。  
○ 田辺南里住宅地での通学路の安全と車両規制のための「ゾーン30」規制を。  
(建設部長) 地元区からの情報を聞き協議する。

### 議員研修会で議会改革を再学習

京田辺市議会は、平成29年8月16日に(株)地方議会研究所 代表取締役の廣瀬和彦氏を講師としてお招きし、「議会改革における課題と対応」をテーマに議員研修会を実施しました。



基本条例の検証や議員間討議、報告会、災害時業務継続計画(BCP)などの全国での状況に加え、見えてきた課題と注意点などを学び、本市議会の今後について協議すべき点が整理できました。

### 議会運営委員会管外視察報告

議会運営委員会は、10月10日に滋賀県長浜市で「災害時業務継続計画(議会BCP)など」について、翌11日には岐阜県可児市で「議会報告会と地域課題懇談会など」について研修を受けました。

長浜市議会では、平成29年3月にBCPを策定され、8月には台風による豪雨で姉川が氾濫し、できたばかりの計画を実行されており、貴重なお話を聞くことができました。

可児市議会では、高校生や医療機関、子育て世代などさまざまな方との懇談を通じて、議会活動に生かすことで多くの成果をあげられました。



### 文化ホール設置の予定は 答 具体的な年数は定めてない

岡本 茂樹 議員  
(一新会)



京田辺市文化振興計画

○ 10年計画で進めている文化振興計画では、文化ホール設置に向けた予定がわかりづらい。具体的に何年目ぐらいに予定しているのか。  
(教育部副部長) 文化振興計画には、施設整備などの具体的な年数は定めていない。なお、中心市街地に置く複合型公共施設の中で、行政機能を含め、文化ネットワークの中心施設となるよう、施設機能のあり方などについて調整を図っている。今後、計画的な市街地整備の見通しが明らかになっていく中で、施設整備の基本構想につなげたい。  
○ 保育行政のより積極的な展開は。  
(子ども政策監) 保育ニーズの増加が続くと見込んでおり、9月に策定した子どもが輝く京田辺の実現に向けた基本方針において、保育提供量の拡大を図ることとし、各種整備を決定した。今後は、小学校区を基本に市立幼稚園と保育所の再編・集約を進め、幼保一元化、幼保連携型認定こども園の配置に取組み、私立施設活用も積極的に進めたい。  
○ 府による茶屋前交差点改良工事が完成すれば、そこから健康村を通る府道八幡木津線の渋滞が解消するののか。  
(建設部長) 府と検討を重ね、渋滞等の対策を進めている。さらなる具体的な対策を検討するため、府と合同で8地点の交通量調査を実施した。茶屋前交差点の交通量に大きな変化はないと見込んでいるが、山手幹線等の開通後にも調査を行い、実態把握に努める。